

「ご挨拶」

在日大韓基督教会 川西教会
牧師 李 重載

「愛は憐れみの心から」

浪速教会がこの世で疎外された小さき者の友となり、慰めと希望を与え続けられていることに、いつも感謝しております。思いはあっても、実際に貧しい隣人の友となり、仕えるということは、容易いことではないにも関わらず、神様からの使命だと受け止め、与えられた仕事に忠誠を尽くしておられる金鐘賢牧師、牧師夫人、また共に奉仕されている全てのスタッフの方々に、尊敬と感謝の意を表します。神様は愛です。神様の愛は、憐れみの心です。イエス様が病人を癒される時も、憐れみの心で癒され、五つのパンと二匹の魚の奇跡を行われる時も、羊飼いのいない羊のように憐れに思われ、食べさせてくださいました。イエス様は、五つのパンと二匹の魚の奇跡を行われる時、「あなたがたが食べ物を与えなさい」とおっしゃいました。弟子たちは何も持っていなかったけれど、御言葉に従った時、五つのパンと二匹の魚の奇跡を経験することができました。もしも今、イエス様が私たちに「あなたがたが食べ物を与えなさい」と言われれば、私たちはどうするべきでしょうか。ペテロとヨハネは、金や銀はなくてもナザレの人イエスキリストの名によって、足の不自由な人を立ち上がらせました。イエス様の御名には力があるため、魂を救い、人々の問題を解決することができます。今の私たちに、このような霊的な力がなくても、私たちが持っているものでいくらかでも主の愛と力を表すことができると思います。イザヤ書 58:10「飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。」泣いている者と共に泣き、笑っている者と共に笑うイエス様の弟子たちが、私たちのまわりにたくさんいれば、この世は決して寂しいものではなく、希望に溢れるようになると思います。浪速教会「愛の家」に、いつも恵みの光が照らされ、祝福の通路として益々尊く用いられるようお祈り致します。

「ご挨拶」

在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」
牧師 金鐘賢

「愛し抜かれたイエス」

「…イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」(ヨハネ 13:1)

浪速教会「愛の家」では、11月から越冬対策の一環として夜回り炊き出しを行います。夜回りは冬が訪れたことのあるしるしでもあります。「愛の家」の路上生活者への支援宣教活動が今日に至るまで守られえたことを覚え神に感謝を捧げ、「愛の家」を支援して下さった皆様にも感謝いたします。

さる9月台風21号により浪速教会は屋根が飛ばされたり剥がれたりする大きな被害に見舞われました。福祉住宅も多くのところ屋根が飛ばされ、瓦が割れたり落ちたりし、壁が剥がれるなどしました。どうすればいいのか途方に暮れていた時、日本キリスト教団本部や大阪教区から励ましと助けを頂き、KCCJ総会や関西地方会からも被災復旧のためにお見舞い、助けを頂き力になりました。心より感謝いたします。今は復旧が進んでこの年末までにはある程度回復できると思います。

4月頃、長年奉仕をして来た一人の信徒Kさんが教会から離れ福祉住宅からも引越してしまい大変心配していました。彼が帰って来ることを多くの信徒と共に祈りました。10月Kさんが歩けない姿になって帰って来ました。私達は彼を私達の部屋に温かく迎え助け支え毎日見回り介護し、病院にも通えるように手配しました。今、再び歩けるようになったKさんは笑顔を浮かべながらすべての集会に参加しています。もう一人Hさんも4ヵ月間の徘徊から帰って来ました。

イエス様は一人も見捨てる事なく愛し抜かれたお方です。私たち「愛の家」も家族一人ひとりに付き添い天国に行く日まで共に生き共に歩みたいと思っています。私達の活動を覚えて変わらぬ祈りとご支援頂ければ幸いです。

宣教チームの訪問

振り返れば今年も多くの宣教チームが神様から遣わされ「愛の家」を励まして下さいました。モンゴルで宣教活動をされている金ギュジン牧師、韓国孔徳教会牧師・長老宣教チーム訪問（28名）、オンヌリ教会青年宣教チーム（15名）、MONO JAPAN（28名）、ソウルサンガン教会宣教チーム（26名）、大邱ドンヨン教会宣教チーム（20名）が夏前に、アルゴク教会宣教チーム（15名）、韓神大学大学院インターンシップ研修生（5名）、インマヌエル会宣教チーム（10名）が夏から秋にかけて訪問されました。また、6ヵ月間献身しながら教会生活を送る短期宣教研修生が2名、日本で働きたいとワーキングホリデーを利用して来日し、木曜と日曜の集会を手伝ってくれる姉妹も与えられ、日々の準備や活動に追われている「愛の家」のスタッフは神様はやはり共におられ私たちを導き養ってくださるお方だとつくづく思い、感謝しました。



木曜伝道集会・日曜伝道集会

フードバンクからの支援物資をお土産に

たくさんの奉仕者が与えられ、各々が賜物を用いて各集会を導いています。世間から見放された、社会で生きづらいと思っ西成にとどまっているおじさんたち（たまにおばさまも）も最近、少しずつ顔を上げて目線が合う回数が増えてきたように思います。昨年に引き続き、韓国から金英気（キム・ヨンギ）伝道師がご高齢にも関わらず1週間住み込みで奉仕をさせていただきますと来られました。メノナイト・プレザレン石橋教会の子ども賛美フラチームは、神様だけを見上げて心からの喜びを笑顔に表しながら踊って下さいました。当重菫姉は以前にも述べさせていただきましたが、今回は当重姉が来られないにもかかわらず、以前共に来てくださった山田律子姉・澤村悦子姉がお2人で来てくださりピアノとソプラノで神様への信仰を表して下さいました。また、療養中だった朴珍烈牧師が再び講壇に立ってくださり、私達は「命ある限り神様からの使命を全うしたい」と強く感じました。



金曜炊き出し会・衣類提供会

この数年は奉仕者の高齢化が課題でありましたが、今年は韓国から2人の研修生を迎え、炊き出し会も活気を取り戻したように感じています。この夏は本当に熱く、辛い夏でしたが、それでも一回も休まず炊き出しの業に励めたことは感謝でした。けれども、台風21号によって、炊き出し会場である西成公園の大木が何本も倒れる被害があり、それはまるで爆弾が落ちたかのような光景でした。自然が持つ力の怖さを思い知らされた出来事でした。衣類提供会は急に寒くなった10月半ばに実施いたしました。本当に急に寒くなった日だったので秋冬用の衣類は飛ぶように失業者の皆さんの手へと渡っていきました。10月最後の炊き出しには大阪女学院の学生さんが授業の一環として加わってくださり、いつになく明るく賑やかな炊き出しとなりました。日本の若い学生が、もっと自分の国の問題に関心を持ち、学びを深め、将来、弱者が生きやすい社会を創り出す人となってほしい、と奉仕者一同が思ったことでありました。



聖書勉強会

入門クラス（姜師母担当）には最大で 8 人が集い、仲間が増えた喜びに満たされながら御言葉を学びました。その内の 3 人が求道者です。他の 5 人は洗礼を受けた後でも復習をしたい人やクラスの補佐役でした。求道者には仕事や生活の全てを失って窮地に立たされた、しかし守られていることをなんとなく感じていて聖書を読み始めたという兄弟たちがいます。素直に心を開いたり疑問をぶつけてくる彼らに聖霊様が働いてくださり必要を満たし、イエス様を救い主として心に迎え入れる事ができますように、お祈りを願います。信徒クラス（金牧師担当）では毎週だいたい 5～8 人が共に御言葉に預かりました。普段から御言葉を聞き慣れていながらも質疑応答にはなかなか集中力と理解力・忍耐力が要ります。金先生にとっても総会長として忙しく飛び回っている合間に御言葉に触れ・信徒との交わりの時間でした。全ての事を神様に感謝します！

教会創立 21 周年記念礼拝

特別賛美ゲストはソプラノ歌手でいらっしゃる当重茜姉妹（藤井寺教会所属）に来ていただきました。昨年からは本格的に毎月 1 回定期的に木曜伝道集会で讃美して下さる当重姉妹に、ぜひ創立記念という特別な場でも、というおじさん達からの声がありました。賛美の後にはいつもエプロンと頭に三角巾をかぶせて配膳を手伝ってくださり、その後には出入り口に立ち、食事を終えて持ち場に帰っていくおじさん達に挨拶やコミュニケーションをとってくださいます。おじさんたちも当重姉妹に賛美の感想やリクエストなどの声掛けもします。イエス様の愛はこのようにして私達一人一人のやりとりを通して隣り人へと流れていきます。ご多忙の中、私達と共に礼拝を捧げてくださり心よりお礼申し上げます。



神様が送ってくださった西成出身の演歌ゴスペル牧師夫妻

金牧師が総会長となり出張が多い中でどのように教会や「愛の家」を守っていけばいいのかと神様に祈る中で、神様は奥田牧師・ミサ子夫人という素晴らしい助け手を送って下さいました。浪速教会「愛の家」のすぐ近くにご夫妻の住み慣れた自宅があります。愛知県の犬山で牧会されていましたが、引退されてから西成に戻ってこられました。先生の失業者・野宿者・生活保護者への熱いけれど優しい「パパ」のような目線と言葉遣いに心を動かされ楽しみにしている兄弟たちもいらっしゃいます。ミサコ先生も教会学校を手伝って下さり心よりお礼申し上げます。

「教会学校」大好きな子ども達！

春の遠足は「ハーベストの丘」へ！芝生のそり滑りや水遊び、動物との触れ合いに笑顔がいっぱいの日でした。夏は関西地方会の合同デイキャンプに参加。出エジプト体験として種なしパンを作ったり、アスレチックをしながら荒野の 40 年について学びました。他教会の友達との再会を喜び一日でもありました。また教会学校のご奉仕に奥田みさこ先生が加わって下さいました。そしてなにより感謝なのが、バザーがきっかけで教会にきてくれるようになったお友達があります！その名も元気くん！子どもたちの体と信仰の健やかな成長、また地域の子どもたちが教会へと導かれますようにお祈りください。



奉仕者の声

『バザーを通して』

関姫煥(ミン・ヒョン)姉妹
(短期宣教研修生・芸術と日本語専攻)

こんにちは。私は2018年5月1日から11月3日までの6ヶ月間、浪速教会に短期宣教に来たミン ヒョンです。私がここで感じた神様を、「愛の家」ニュースを通して、みなさんと分かち合う機会が与えられたことを感謝しながら始めたいと思います。

ここでたくさんの働きを手伝わせていただきましたが、一番印象に残っているのは、バザーです。教会で初めて行われるバザーでもあり、私にあれこれ作成する役目が与えられたのもあって、期待と共に不安もありました。みんなで力を合わせて準備した初めてのバザーにたくさんの方が来ることを願いました。

しかし当日、色んな住民の方々が訪ねてくださいましたが、私が期待していたほどではありませんでした。心の中で「まあ、初めてのバザーだし、人数が重要ではないよね」と思いながらも、少しがっかりしてしまいました。開始から



しばらくすると、教会スタッフや子供たちが教会の近所に、チラシを配り始めました。そのチラシをもらったある男の子が来てくれました。その男の子も、他の子供たちのように、あれこれ楽しんだあと、帰っていきました。そして時間になり、心残りではありましたが、みんなで片付けをし、初めてのバザーが終わりました。

次の日、主日の子供礼拝の時間にお花に水やりをするため、教会の外に出ました。その時、昨日教会に来てくれたあの男の子がいたので、嬉しくて挨拶をしました。話を聞くと、その男の子は礼拝に参加するために来てくれました。

「人が多いから成功で、人が少ないから失敗ではない」という話をよく聞きました。今回のバザーを準備しながら、私が求めるべきだったのは、「たくさんの人」ではなく、「一人の魂が主に立ち帰ること」だったのを悟りました。正しい祈りの課題を教えてくださいました主に感謝し、これからも浪速教会のバザーが、この町の魂を主へと立ち帰らせるきっかけとなることができるよう、応援し、祈っていきます。



☆☆ バザーについて ☆☆

今回のバザーは教会の女性達が主催し、感謝のこころに収益金を『愛の家』に献げることができました。

女性達！？浪速教会に・・・！？皆様もご存知かと思われませんが、当教会は男性が9割、女性1割にも満たない3～4人でした。しかし今年は大学生の短期研修生が2人、また旧研修生が日本への長期出張やワーキングホリデーを利用して来日。そのような良い環境を神様が与えて下さったので、若い力を借りて1回でも地域との関係を築いていく機会をもちたいと考え、バザーを開催いたしました。また皆様からの支援物資の中で男性陣の需要がない女性服や靴・靴、子ども用品、その他生活用品、更には電化製品等を西成地区の必要の為に考えました。自然災害が頻発する昨今、教会が地域のどこにあるのかを知ってもらい、緊急時や不安な時にこそ教会を思い出してほしい、と地域と共存する浪速教会「愛の家」を

奉仕者の声

礼拝奉仕を通して』

李河淨(イ・ハジョン)姉妹
(短期宣教研修生・幼児教育学専攻)

こんにちは。私は大邱忠誠教会から来たイ・ハジョンです。
浪速教会は賛美に満ち溢れる教会だと思います。礼拝の始めの賛美をする時、本当に楽しく、喜びをもって賛美をささげることができます。その賛美に私もピアノの伴奏としてご一緒できることを本当に感謝しています。そこで、私が伴奏を通して感じたことを少し分かち合いたいと思います。

ここに来てすぐ、初めて迎える主日からピアノ伴奏をすることになりました。もともと教会で賛美チームとして仕えていましたが、礼拝の伴奏は一度もしたことがなく、とても緊張して震えていました。最善を尽くして練習し、準備しましたが、緊張で震えたままピアノを弾くことは大変でした。心臓はバクバクし、手からは汗が出て指が滑りました。右往左往しながら1週目を終え、2週目、3週目と伴奏を続けました。ミスは少しずつ減っていったけれど、“間違えたらどうしよう”という緊張を和らげることはできませんでした。そんなある日、伴奏の場で礼拝前の祈りをする時、ふとこんな祈りをささげました。「神様、今から私がやるとは思いません。神様が私の手を通してやってくださいますよね？私はただ用いられるだけです。」そうして賛美が始まると、驚くことに平安な気持ちで伴奏をすることができました。私の力でやろうとがんばるのではなく、神様に祈って委ね、神様の力に頼ることで、伴奏の時間が楽になりました。それからは、不安な心よりも、主を礼拝する気持ちで伴奏に臨むことができるようになりました。こんな風に、私を礼拝の道具として用いてくださり、共に働いてくださる神様を感じることができ、心から感謝しています。



「愛の家」の人々

「宣教チーム」や「バザー」について触れているコーナーでもお伝えしましたが、今、浪速教会「愛の家」にて女性の存在がとても輝いています。

人間は幼児期にお母さんの愛を十分に受ける事ができないと、自制心をうまくコントロールできなかつたり、依存症になってしまうとカウンセリング(心理学)で学びました。本人は頭では分かっているても事態を変える力はなく、どうする事もできないのです。そして、西成の仲間には、そのような幼児期の体験によってうまく社会生活に適應できない人たちがいます。一見、ただ、だらしない生活をしているだけ、と批判されてしまいがちな兄弟たち…。けれども、浪速教会「愛の家」には、そのような西成の仲間たちに、寄り添い、イエス様に倣って弱さを抱える人たちと共に歩もうと、神様の愛を伝える働きを使命としている女性たちがいます。

彼女たちの奉仕の姿を見ていると、
「最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしてくれたこのなのである」
(マタイ25:40)という聖書の言葉が聞こえてきます。



特集 「愛の家」の恩人

【番外編】恩人の近況報告

名誉牧師 古川富也

(日本自由メソヂスト教団 大阪東南キリスト教会)

「すべてのものは対をなし、一方は他に対応する。主は不完全なものを何一つ造られなかった。一方は他の長所をさらに強める。だれが主の栄光を見て飽き足りたといえようか。」 これを読んで不完全なものは良くないものだと言っているように思う。だが純粋であることこそ完全でよいものだと言っているのかと思うとそうではない。世の中に不純も必要だとわたしは思う。塩は世の中でいくらでも売られているが、食卓塩は99.99パーセントという純粋さを誇っている。一度天然の塩をなめてみたら塩辛さの中に味があるのに気が付くだろう。不純物があるからこそ味があるのだ。人間にしても、純粋、純真、清潔、完全無欠、そういう人間がいたらとても近づけないではないか。その前に出たら、自分の汚さ、不純が暴露されるようで恐ろしくさえ感じるだろう。お互いにある程度の不完全な人間であることが分かっているからこそ安心してお付き合いできる。親子にしても、子どもは完全無欠な父の前に出たら窮屈でこころを開いて話もできないだろう。酒も飲めないだろう。わたしと家内とは六三年間添い遂げたが、不倫こそしないが謹厳実直ではなかった。一九七〇年代は接待も多く、午前様をやったことは幾度もあった。わたしの手元に家内が書いた紙の端くれに書いたメモがあり、捨てずに大切に持っている。これはあるとき会社にいたころ監査のために名古屋へ出張に行った時のこと。夕方になって相手がそのまま帰すわけにもゆかず、連れ出して飲みにゆき、遂に遅くなってホテルに泊まってしまった。酔っぱらっていて電話をすることも忘れて、そのまま眠ってしまった。前述のメモにはこのようにある。「一晩の外泊を怒っているではありません。一晩中心配しながら過ごしたその傷は 大きいです。なんのための電話でしょうか。」とある。家内がいなくなってしまう今、愛し合った記念としてこれは身近に持っているのです。現在家内が無くなる日まで住んでいた老人ホームの同じ部屋に寝起きしているが、ベッドで眠るときのお祈りの中で、妻との再会を祈ります。天国では神への信仰ある者は皆、神さまへの礼拝をしています。家内が地上にいた時、夫やと姑との間で流したかたであるう涙を、神さまが拭ってくださいるよう寝る前に祈るのです。



「愛の家」会計報告書(2018.4.1~2018.10.31)

収入	18予算	18. 4-10	備考
定期後援会	800,000	599,000	
一般後援会	1,900,000	870,539	
クリスマス献金	1,000,000	0	
食事献金	500,000	77,500	
総会支援金	300,000	300,000	
地方会支援金	450,000	315,000	
御米献金	360,000	41,000	
小計	5,310,000	2,203,039	
繰越金	761,270	1,776,177	
合計	6,071,270	3,979,216	

支出	18予算	18. 4-10	備考
事務・備品・印刷費	330,000	100,381	
交通費	100,000	0	
車両維持費	300,000	26,136	
奉仕者支援金	1,200,000	201,015	
研修費	150,000	0	
御米代	900,000	322,706	
副食費	2,000,000	1,070,921	
会議費	30,000	0	
発送費	100,000	39,366	
愛の家建築積立金	300,000	0	
救済費	50,000	30,585	
修理施設費・予備費	611,270	1,133,130	
小計	6,701,270	2,924,240	
繰越金		1,054,976	
合計	6,071,270	3,979,216	

*「御米代」は頂いた玄米を精米したり、御米を購入した際の費用であり、それ以外に多くの玄米や御米を献品していただいで支えられています。

= 台風21号被災報告 =

9月4日(火)夕方に関西地方を襲った巨大台風21号は関西のあらゆるところに爪痕を残し、「大阪は大丈夫やで！」となめてかかっていた大阪人を震えさせました。当教会も屋根が飛び、窓ガラスが割れ、丁度近くを歩いていた姉妹がかすり傷を負い、車のフロントガラスが割れました。3日後、みんなが大変な中でKCC J幹事長と西成教会、日本基督教団生野教会の牧師先生方が応急処置作業に駆けつけてくださいました。また多くの方々が声を掛け合って災害見舞金・支援金を送って下さいました。支えられてばかりの私達で本当に申し訳ない気持ちと言葉に表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。関西全域の工務店が豪雨災害と台風災害の修繕に追われていてなかなか来てもらえませんが、年内には安心できる教会へと戻したいと思ひます。



西成公園



生野教会小林牧師



西成教会の金牧師と紙野伝道師

教会屋根



炊出し用の車



路上生活者支援のための クリスマス献金のお願い



御子イエスのお誕生を待ち望む季節となりました。支援者の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素より私ども、浪速教会「愛の家」の活動へのご理解、ご協力を賜り、まことに感謝申し上げます。

今年の浪速教会「愛の家」は、韓国から大学生2人が研修生として与えられ、また元研修生がワーキングホリデーを利用し愛の家に戻って来たり、女性信徒の頑張りにより初めてのバザーを試みるなど、若さと活気がよみがえった一年となりました。日本の教会において信徒の高齢化、減少は大きな課題となっている中で、私たち浪速教会「愛の家」は小さな群れではありますが、まだまだ成長できる群れであると確信し、感謝、感謝の日々でした。

今年も、越冬対策夜回りを11月から始めております。だんだんと風の冷たさが身にしみてくるこの季節、路上生活を余儀なくされている西成の仲間を思うと胸が痛くなります。今年も皆が無事に冬を乗り越えていくことができますように、お祈りください。また一人でも多くの西成の仲間が、主に出会い、主に新たにされて、残りの人生を主と共に歩む決心へと導かれますよう、お祈りくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

現在、私ども「愛の家」は炊き出しを一週間に3回行っております。金曜炊き出しには毎回約150人～250人、日曜礼拝や木曜集会にも常時100人近くの路上生活者が温かい食事を求めて並べられます。炊き出しの実際の経費として、毎週57,000円を支出しております。

(お米50kg・12,000円、副食費45,000円、合計57,000円)

力なく、小さな赤ちゃんとして私たちのもとへとおいでくださった主イエス様のお誕生を喜びこのとき。路上生活を強られる方々に、御子イエスのお誕生の喜びと愛と希望を届けることができますように、クリスマス献金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

「愛の家」事業：金曜炊き出し、木曜集会&日曜礼拝と食事提供、散髪奉仕、共同生活、聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、越冬夜間パトロール、生活用品収集分配

2018年度クリスマス献金目標額：100万円

◇ 定期、一般後援者募集

一般後援：1000円以上、定期後援：毎月1000円以上

◇ 衣類、生活用品、毛布、寝袋、鞆、靴、カイロ、食材、お米を送って下さい。

郵便振替：00930-0-299392 在日大韓基督教会 浪速教会

送り先：〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」

Tel 06-6561-4712、6562-0109、Fax 6561-4709

E-mail:ainoie@msn.com ホームページ：www.ainoie.org

2018年12月

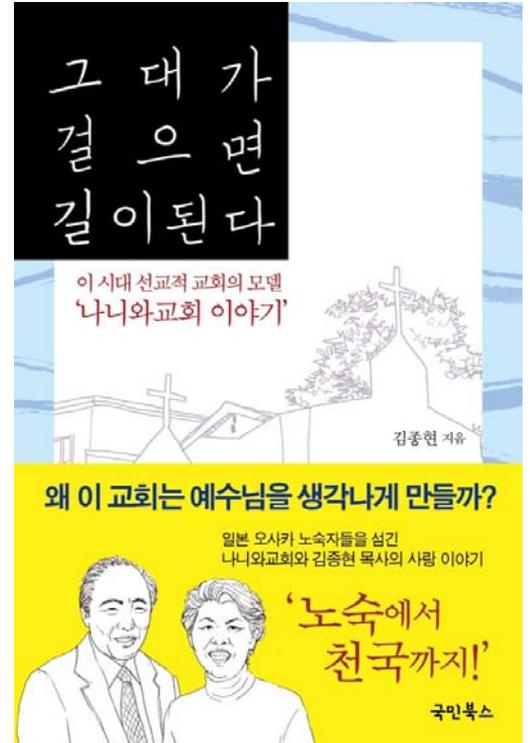


在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」
金鐘賢 牧師

『主は道を造られる』

(直訳：あなたが歩けば道ができる)

今の時代、宣教する
教会のモデル～浪速教会の話～



21年前に日本に来て、耐え難い試練の中で神様に祈ると道が開かれ、大阪の貧しい人々の所に導かれました。彼らと共に歩んだ奇跡の日々を一冊の本にまとめました。

今は韓国語のみの販売ですが、興味のある方は韓国内の書店、もしくはインターネット販売でお求めいただけます。



ぐるり農園の無農薬野菜

ありがとうございます
ごちいます



アルミ缶献金

発行責任者 金鐘賢
〒557-0061 大阪市西成区北津守 3-2-3
浪速教会「愛の家」内
TEL 06-6561-4712(教会)
E-mail: ainoie@msn.com
ホームページ: www.ainoie.org
郵便振替口座: 在日大韓基督教会浪速教会
00930-0-299392